

柴田学園大学附属柴田学園高等学校

令和8年度

学 校 経 営 方 針

1. 教育方針

- (1) 建学の精神を尊重した生徒主体の学校経営を目指す。
- (2) 「意欲のある生徒」の育成を通して、生徒一人ひとりに自己肯定感を育成させる。
- (3) キャリア教育を根幹とする出口教育に努める。
- (4) 柴田学園で取り組んでいる高大連携を促進する。
- (5) 多様な生徒の実態を把握するとともに教職員間の情報共有に努め、職員全体が同じ方向の指導対応を図る。

2. 重点目標

- (1) 基礎学力の定着・向上を図り、主体的に学習に取り組む態度を育成する。
- (2) 規範意識を涵養し、責任を重んじる態度を育成する。
- (3) 自己と社会との関わりについて探究し、望ましい勤労観、職業観を育成する。
- (4) 自他を愛し、多様性を尊重し、寛容さと創造性を持ち、「生きる力」を育む人間を育成する。
- (5) 実践的研究の充実を図り、学校の教育課題を解決する。
- (6) 家庭や地域社会と連携し、地域活動への積極的な参加を通して、郷土に誇りを持ち社会的に自立できる人間を育成する。

3. 重点目標達成のための具体的方策

(1) 学習指導の充実

- ①わかる授業及び感動する授業を実践する。
- ②ICT 機器を活用した授業を展開する。
- ③合理的配慮に立脚する授業を実践する。

(2) 生徒指導の充実

- ①HR 経営の充実を図る。(生徒と教師の信頼関係の構築)
- ②規則やルール、マナーを遵守させ、基本的な習慣を身につけさせる。(スマホ・携帯・SNS など)
- ③挨拶の励行、時間の厳守、場に応じた言葉遣いの習慣化等を定着させる。
- ④不登校、いじめ、様々な問題行動の未然防止と早期発見・対策に努める。
- ⑤人権と多様性、人格と個性を尊重する価値観と正しい知識を定着させる。

(3) 進路目標の実現

- ① 3年間を通した進路指導の体系化を図り、希望進路を達成できるよう生徒個々の意識の高揚に努める。(二者・三者面談の実施)
- ② 進学意欲を向上させ、目標達成のために系統的・計画的・継続的進学指導をする。
(高大連携事業を活用した系列校への進学)
- ③ 生徒の大学合格や就職内定に向けて、教員による大学研究、入試問題研究、小論文、面接指導などを推進し、教員の指導力強化を図る。

(4) 特別活動の充実(部活動、生徒会活動、ボランティア活動等)

- ① 技術向上を目指すとともに、心と体を鍛える部活動指導を実践する。
- ② 地域行事、ボランティア活動等に積極的に参加し、地域に開かれた学校を目指す。
(活動内容の情報発信等、学校の魅力をアピールする)

(5) 健康指導・安全指導・環境に対する指導

- ① 自己の健康管理を認識させ、食事・睡眠といった基本的な生活習慣を徹底させる。
- ② 交通ルールを遵守させ、重大な事故を防ぐ。
- ③ 事務との連携を図りながら、また、学園の財政状況に応じた学習環境の不整備な部分の整備に当たる。

(6) 研修の充実と教職員の資質向上

- ① 校内外研修の充実
- ② 家庭や地域社会と連携した特色ある教育活動の研究・連携
- ③ 柴田学園高校の職員としての服務規律の確保(体罰、パワハラ、セクハラ、個人情報漏洩、交通事故・違反、飲酒運転、わいせつ行為、公金等不正経理等)

(7) リスクマネジメント

- ① 生徒が安心して勉学や部活動などに励むことができる環境を整える。
- ② 教職員一人一人がお互いを認め合い、相互理解を持って、生徒の指導に当たる。

4. 生徒が輝く学校を目指して (玄関に掲げてある言葉)

- (1) 「生徒の能力を最大限に引き出す学校」 → 「可能性は無限大」
- (2) 「生徒にやる気を出させ、夢や希望を持たせる学校」 → 「輝く自分になれる」

5. 目指す学校像

○生徒：「この学校に入って良かった」

○保護者：「この学校に入れて良かった」 → 三者がそのように思える学校

○教職員：「この学校に勤務して良かった」

全教職員の活気と連帯感に満ちた和の中で、教職員一人一人の主体性や特性が生かされる組織運営を目指すとともに、学校・保護者・地域との深い信頼と連携の中で、生徒一人一人の「自己実現力」を育む。